

LBX

LEXUS、新型「LBX」を発売

— 高級車の概念を変えるサイズのヒエラルキーを超えた次世代 LEXUS モデル —

- 本物を知る人が素の自分に戻れるクラスレスコンパクトで新しいラグジュアリーの価値を提供
- クルマの素性を徹底的に鍛え上げ、ドライバーとクルマが一体となりいつまでも運転していただく走りの実現
- 機能的本質や動的性能に根差したプロポーションと上質で存在感のあるデザイン
- 多様なライフスタイルに寄り添う世界観の提案と唯一無二の1台をお選びいただけるカスタマイズ “Bespoke Build”
- 人間中心の考え方に基づいた最新の予防安全機能を搭載



新型 LBX “Cool” (ソニッククロム・海外仕様)

LEXUS は、サイズのヒエラルキーを超える新型「LBX」の国内仕様を 11 月 9 日（木）に発表しました。本日よりご注文の受付を開始し、12 月下旬頃の発売を予定しております。また発売に際し、お客様に唯一無二の 1 台をお選びいただける LBX “Bespoke Build” は 100 台を抽選販売いたします。抽選の申し込みは全国のレクサス店にて、11月9日（木）から11月21日（火）まで受付し、当選者には販売店からご連絡いたします。

LEXUS は、1989 年の創業以来、常にイノベーションの精神を貫き、お客様に新たな技術や価値を提供することに挑戦し続けています。愛車と共に過ごすライフスタイルを楽しく豊かにしたいという想いのもと、世界中のお客様のニーズにお応えする多様な選択肢を提供してまいります。

2021 年以降、LEXUS は NX、LX を皮切りに次世代 LEXUS モデルとして車両の基本性能を徹底的に磨き上げてきました。さらに NX や RX への PHEV モデル導入や BEV 専用モデル RZ の導入などカーボンニュートラル社会の実現に向けて電動化を推進しています。そして 2023 年には、ショーファードリブンカーの新たな選択肢としての新型「LM」や、クラスレスなコンパクトという新しい価値を提案する新型「LBX」、あらゆる道を走破し、新たな体験を提供する本格オフローダー新型「GX」など、世界の多様なお客様と地域のニーズに寄り添ったクルマづくりを加速させ、「お客様を笑顔にする」ブランドを目指してまいります。

新型「LBX」は、「これまでの高級車の概念を変える、コンパクトサイズながらも走りやデザインも上質であるサイズのヒエラルキーを超えたクルマをつくりたい」とのブランドホルダー豊田の想いをもち、『本物を知る人が、素の自分に戻り気負いなく乗れるクルマ』を目指しました。

コンパクトカー向け TNGA プラットフォーム（GA-B）を刷新するとともに、基本素性と電動化技術を徹底的に鍛え上げました。「Lexus Driving Signature」の深化を追求し、ドライバーとクルマが一体となり、いつまでも運転していたいと思える操縦性と全ての乗員が自然と笑顔になれるような快適性を追求しました。

デザインでは、コンセプトを「Premium Casual」とし、コンパクトなボディサイズにとらわれない存在感と上質さを併せ持ち、高い審美眼をもったお客様が日常でカジュアルに使いたくなるコンパクトクロスオーバーを目指して開発しました。エクステリアでは、スタンスの良いダイナミックなプロポーションを実現。

また、LEXUS の新たなフロントフェイス「ユニファイドスピンドル」を採用。インテリアでは、プレミアムに相応しいしつらえに徹底的にこだわり、気負うことなくリラックスしてクルマとの一体感を楽しめる室内空間を目指しました。

グレード体系では、お客様一人ひとりのライフスタイルや感性に寄り添ったクルマを提供したいという想いのもとバリエーションの広がりを表現した「5つの世界観」から、シンプルで洗練されたモダンな空間を演出する LBX “Cool”、落ち着きと華やかさを両立する LBX “Relax”を導入。さらに、唯一無二の1台をお選びいただけるオーダーメイドシステム LBX “Bespoke Build”をご用意しました。

また、24年1月に開催される東京オートサロン2024では、お客様の多様なライフスタイルにマッチする新型「LBX」の新しい世界観の1つとして、運転を楽しみ、非日常の高揚感を味わえるパワートレインを強化したパフォーマンスモデルを出展予定です。

< 新型 LBX の主な特長 >

① クルマの素性を徹底的に鍛え上げ実現した「Lexus Driving Signature」の深化

- ・専用開発を施した GA-B プラットフォームの採用による高い運動性能の実現
- ・ドライバーとクルマとの一体感を徹底的に追求したドライビングポジションとパッケージ
- ・音や振動の発生源を抑制する源流対策にこだわった高い静粛性
- ・走りの素性向上とデザイン性を突きつめた空力性能
- ・電動化技術をさらに磨き上げた新開発 HEV システム

② 機能的本質や動的性能(パフォーマンス)に根差したプロポーションと上質で存在感のあるデザイン

- ・機能全体を包括的に捉えた LEXUS の新たなフロントフェイス「ユニファイドスピンドル」
- ・コンパクトなボディサイズにとらわれないタイヤコンシャスでダイナミックなプロポーション
- ・低重心でシンプルな塊感を強調するリヤデザイン
- ・サイズのヒエラルキーを超えた上質なインテリアデザイン
- ・走りの楽しさを最大化させるコックピット
- ・居心地の良い室内を彩るアンビエントイルミネーション

③ 多様なライフスタイルに寄り添った5つの世界観*1のご提案とオーダーメイドシステム “Bespoke Build”

- ・多くのお客様のライフスタイルや好みにマッチする5つの世界観
- ・内装色・シート素材・刺繍パターン等をお選びいただき、豊富なバリエーションから唯一無二の1台を作りあげるオーダーメイドシステム“Bespoke Build”

④ 人間中心の考え方に基づいた最新の予防安全機能

- ・先進の予防安全技術 Lexus Safety System+
- ・快適な移動を支える Lexus Teammate
- ・12.3インチフル液晶メーターの採用など運転支援の拡充

Lexus International チーフエンジニア 遠藤 邦彦

新型 LBX の車名は「Lexus Breakthrough X(cross)-over」を意味しています。これまでの高級車の概念を変え、『本物を知る人が、素の自分に戻り気負いなく乗れるクルマ』を目指し開発してまいりました。いつまでも運転していたくなるクルマ本来の走る楽しさを追求し、ドライバーズシートに座った瞬間から感じるこれからこのクルマを運転するという高揚感。アクセルを踏み込んだ瞬間に感じるドライバーとクルマの一体感。気心知れた相棒と一緒にいるような安心感をご堪能いただけるように、基本素性を徹底的に鍛え上げました。コンパクトなサイズでありながらも、上質で存在感のあるエモーショナルなプロポーションを聖域なき改善で、一途にこだわりぬき実現しました。LEXUS が提案する新しい「コンパクトラグジュアリー」を是非多くのお客様にご体感いただきたいと思っています。

【新型 LBX 主要諸元】

全長	4,190 mm
全幅	1,825mm
全高	1,545mm*2
ホイールベース	2,580mm
車両重量	1,310kg*3
パワートレイン	1.5L 直列3気筒
エンジン最高出力 (kW (PS) /r.p.m.)	67(91)/5,500
エンジン最大トルク (N・m (kgf・m) /r.p.m.)	120(12.2)/3,800~4,800
モーター最高出力 (kW (PS) /r.p.m.)	フロント：69(94)/リヤ：5(6)
モーター最大トルク (N・m (kgf・m) /r.p.m.)	フロント：185(18.9)/リヤ：52(5.3)
タイヤサイズ	225/60R17 225/55R18

*1. 国内仕様には LBX “Cool”、LBX “Relax”を先行導入

*2. 全高1,560mmはシャークフィンアンテナを含む欧州仕様

*3. FFモデル。E-Fourは1,390kg

<凡例>

○：6月5日のプレスリリースから変更なし

★：6月5日のプレスリリース以降の追加情報を一部含む
(追加情報は太字にて記載)

★：6月5日のプレスリリース以降の追加情報

クルマの素性を徹底的に鍛え上げ実現した Lexus Driving Signature の追求

あらゆる走行シーンで減速、操舵、加速がシームレスに繋がる気持ちよさなど、ドライバーの意図に忠実でリニアな応答を目指す LEXUS ならではの乗り味「Lexus Driving Signature」。

新型 LBX では、この「Lexus Driving Signature」を追求し、クルマとの一体感を醸成するドライビングポジションや慣性諸元向上のためパッケージにこだわるとともに、フロントサスペンションのジオメトリ刷新、ボディ剛性の向上、運転に不要な雑味を抑制した静粛性など、基本素性を徹底的に鍛え上げました。ドライバーとクルマが一体となることで、いつまでも運転していきたいと思えるドライバビリティを実現。全ての乗員が自然と笑顔になれるような走りを目指しました。

<LEXUS 専用改良プラットフォーム>

○新型 LBX では、コンパクトカー向け TNGA プラットフォーム (GA-B) に LEXUS 専用開発を施し初採用。軽量かつ高剛性、低重心なボディをベースに慣性諸元の更なる最適化を追求しました。ドライバーの着座位置を下げることで重心高と全高を下げつつも十分な室内空間を確保し、トレッドを拡大することで、ワイド&ローなスタンスを実現。また取り回しの良さにこだわり、クラスを超えた大径タイヤを採用しながらも、最小回転半径 5.2m を実現しました。

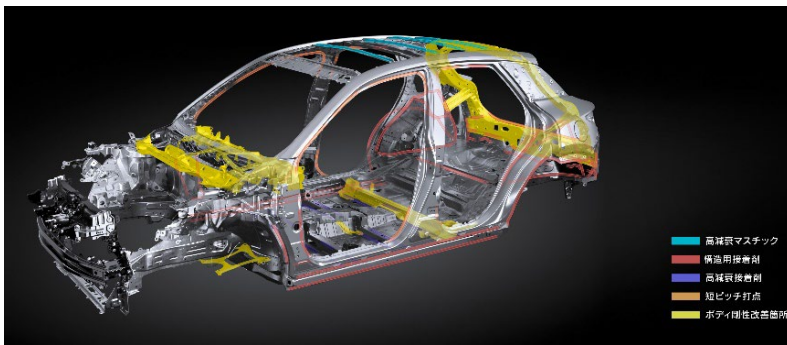


LBX プラットフォームイメージ

○ボディ骨格の接合には短ピッチ打点技術や構造用接着剤の採用部位を拡大。接合剛性を高めつつ、フロアに採用している構造用接着材のうち、人に近い部位は高減衰接着剤に置き換えることで高周波域での振動レベルを低減、操縦安定性と乗り心地や NV(ノイズ/バイブレーション)性能の向上に大きく寄与しています。

○接合剛性だけでなく性能向上に寄与する部位の剛性向上にも積極的に取り組みました。フロントサスタワー間を繋ぐカウル構造を見直し着点剛性を向上したほか、インパネ内部構造を徹底的に補強することでステアリングコラム剛性やインパネリインフォースメント剛性を高め、ステアリングで感じる余計な振動を低減しつつ、高い操舵応答性を実現しました。

○ルーフレインフォースメントを最適配置することでルーフパネルの薄板化、フードのアルミ化、センターピラーに2.0GPa（ギガパスカル）級、フロントバンパーリインフォースメントに1.8GPa（ギガパスカル）級のホットスタンプ材を採用することで、軽量化と優れた剛性、高い安全性能を実現。重心高の低減など慣性諸元の最適化により操縦安定性の向上に貢献しています。



ボディ構造(イメージ)



ボディ構造(イメージ)

<サスペンション、タイヤ、ブレーキ>

○サスペンションは、フロントにはサスペンションジオメトリを刷新した新開発のマクファーソンストラット式サスペンションを採用。カスター角を大きくすることで高い直進安定性を確保するとともに、車体ロール時のトーイン変化量を抑えアンダーステア特性を低減し、旋回中の車両姿勢は限界域まで一体感と安心感のあるリニアなコントロール性を実現しています。フロントサスペンションナックルには高剛性なアルミ鍛造ナックルを採用することでばね下を軽量化。加えて、新開発の3点締結の入力分離型アッパーサポートを採用することで、リニアな操舵応答性と上質な乗り心地の両立に寄与しています。リヤには、軽量高剛性なトーションビーム式サスペンション(FFモデル)と高い走行性能とリヤモーター搭載を両立するトレーリングアーム式2リンクダブルウィッシュボーンサスペンション(AWDモデル)を採用しました。新開発のショックアブソーバーは、動き出しから素早く反応する摺動部品を採用することで、極微低速の減衰力を確保し、操安性・乗り心地を高次元で両立させています。

○クラスを超えた存在感をもたらす大径幅広タイヤの採用により、タイヤの負荷許容能力が向上、タイヤ特性のリニアな部分を使いコントロール性の高い運動性能を実現しています。

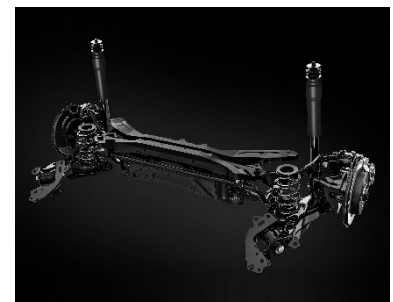
○ブレーキには、AHB-G ブレーキシステムを採用。スムーズなブレーキフィールとペダル操作の質感向上に寄与しています。また、リニアな制動感と高い接地感を実現するブレーキ車両姿勢制御(ピッチ制御)を設定しました。



フロントサスペンション



リヤサスペンション(FFモデル)



リヤサスペンション(E-four)

< 静粛性 >

○音や振動の発生源を抑制する源流対策にこだわり、徹底したエンジンノイズや振動の低減を実現しました。エンジンマウントの最適配置による起動時のショックを低減し、エンジン本体へのバランスシャフトの採用による低回転時のフロア振動を抑制しました。エアクリーナホースへのレゾネータ追加による吸気音低減など、エンジン周りの源流対策を施すとともに、排気管ではエンジンからの振動伝達を低減するフレキシブルパイプを採用、メインマフラー容量を拡大し排気音を低減しました。吸音層と遮音層の2層からなるダッシュインナーサイレンサーには更に吸音層を追加し3層構造とすることで、板厚と密度の最適化と併せ、吸遮音性能を向上しました。

○ルーフパネルのマスチックシーラーの一部に高減衰タイプを採用することで、重量のある制振材を使用することなく効率的に振動を抑え、走行時や雨天時の車内静粛性を向上。軽量化による低重心化との両立を図っています。



源流対策・静粛性 イメージ

< 空力性能 >

○空力による素性の向上にも徹底的にこだわりました。フロント周りは、先端を低く構えたフード形状と、シームレスグリルが、風流の変動を抑制。意匠性とともに操縦安定性と乗り心地にも貢献しています。サイドではドアパネルとベルトモールの段差を最小化することで、高い整流効果を実現し操縦安定性能を高めたほか、ロッカーモール下端のフィン形状により車両のロールを抑制することで、フラットな乗り心地を実現。リア周りでは、ルーフからリヤスポイラーの後端、門型スポイラーやリヤコンビランプの形状工夫により車両後方への流れを最適化し、高い直進安定性を確保。加えて床下アンダーカバーにディンプル形状を設定し、微小渦を発生させ流れの変動を抑える事により接地感を向上、高速域の走行安定性を高めています。

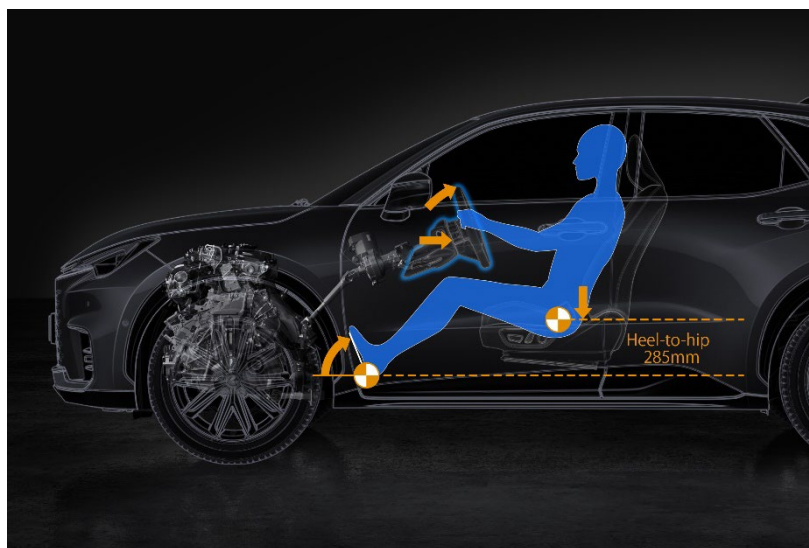


空力性能イメージ

<ドライビングポジション>

○新型 LBX では「ドライバーとクルマとの一体感」にこだわり、ドライビングポジションや視認性を徹底的に追求しました。着座位置を下げることでドライバーを車両重心高に近づけ、クルマの動きとの一体感を演出。ペダル操作時の力の入れやすさも向上させました。それに合わせ、手首や肘の角度、肩からの距離などを実機で何度も検証し、自然に力の入れやすいステアリング位置と角度を実現しました。加えて、着座位置に合わせペダル類も再検証しました。アクセルペダルは足首の動きと一体となるオルガンペダルを採用し高い操作性を確保したほか、ブレーキペダルはアクセルペダルからの自然な踏み替え操作にこだわった踏面角とし、フットレストはペダル操作時に力が入れやすい角度としています。

ドライバーの視認性では、フード死角長を抑えフード上面が見えることで、自車位置把握のしやすさを実現。A ピラー形状やフードとのレイアウトにも徹底的にこだわることで前方下方視界を確保し、走行ラインの把握しやすさを追求、車両との一体感とライントレース性を高めました。



ドライビングポジション

<一体感ある走りに寄与するシート>

○クルマとの対話のしやすさを追求し、車両の挙動を感じやすく正確な運転操作ができるシート性能を目指しました。シートクッションには深吊り構造を採用、横から荷重がかかった時のクッションの座圧変化を低減し、コーナリング中のドライバー姿勢の優れた安定性を実現しました。シートバックは背筋が伸びるような形状とし、腰の支持圧を上げて支えることで、頭部の揺れの軽減と視線の安定化を図りました。

電動化技術を磨き上げたレスポンスとつながりの良さによる走る楽しさを提供

新型 LBX では、高効率な 1.5L 直列 3 気筒エンジン(M15A-FXE)とモーター出力を向上した軽量でコンパクトなトランスアクスル、高い電池出力のバイポーラ型ニッケル水素電池を搭載した HEV モデルを設定しています。これまで培ってきた電動化技術によりエンジン、モーター、電池の性能を十分に引き出すことで「Lexus Driving Signature」を追求しました。アクセル操作に対する電池とモーターによるアシストを大幅に強化し、応答遅れが少なく立ち上がり早い電気リッチな加速感を実現。さらに加速中のエンジン回転数と車速、エンジン音を連動させることで伸びのあるリニアな走りを演出しています。また HEV システム全体で高効率となるよう緻密に制御することで、優れた燃費性能を実現しました。

<駆動カコントロール>

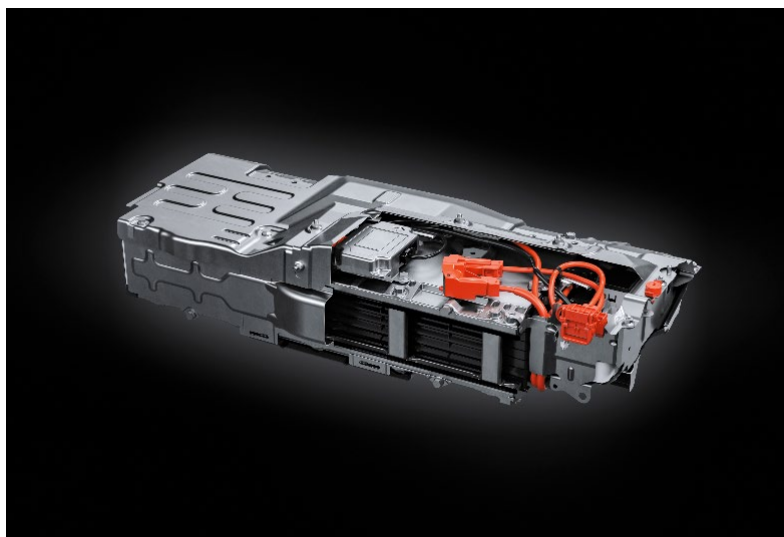
○新型 LBX は走行シーンにより加減速を最適化する駆動力制御としています。登降板時には路面の勾配変化を読み取り、加速および減速トルクをアシストすることでアクセルやブレーキ操作回数の低減に寄与しています。加えてワインディング走行などにおいて前後左右 G の高い走行を判定すると、アクセルオフ時の減速アシストを増加させ、エンジン待機回転数を維持し再加速をアシストすることで走りのリズムを生み出します。このように環境やドライバー意図を汲み取ったつながりの良い走りを実現しました。



左：1.5L HEV システム



右：1.5L HEV エンジン



HEV バッテリーバイポーラ型ニッケル水素電池

機能的本質や動的パフォーマンスに根差したプロポーションと上質で存在感のあるデザイン

新型 LBX では、デザインコンセプトを「Premium Casual」とし、サイズのヒエラルキーを超えた上質さと存在感を併せ持ち、高い審美眼をもったお客様が日常でカジュアルに使いたくなるコンパクトクロスを目指し開発してきました。

エクステリアでは、コンパクトクラスのパッケージにとらわれない発想により、クラスを超えた大径タイヤの採用、スタンスの良いダイナミックなプロポーションを実現。またフロントフェイスでは、機能全体を包括的に捉えた「ユニファイドスピンドル」として、新たな時代のアイデンティティに挑戦しました。インテリアでは、「Tazuna Concept」を採用しながら、プレミアムに相応しいしつらえに徹底的にこだわり、気負うことなくリラックスしてクルマとの一体感を楽しめる室内空間を目指しました。



エクステリア



インテリア

▽エクステリアの主な特徴

<カーボンニュートラル時代に求められる LEXUS の新たなフロントフェイス「ユニファイドスピンドル」>

LEXUS のフロントフェイスは 1989 年の初代 LS から始まる徹底した空力性能へのこだわりから始まり、2003 年 LF-S での「レゾリュートルック」¹⁾、2012 年に GS で挑戦した冷却性能向上を活かした造形「スピンドルグリル」、2022 年の RZ から始まる電動化に向けグリル形状に頼らない、「スピンドルボディ」という表現に取り組んできました。今回の新型 LBX では、カーボンニュートラル時代に求められる徹底した空力性能の向上に挑戦し、空力・操縦安定性に着目、基本性能の向上を実現するとともに、レゾリュートルックに原点回帰した新たな LEXUS のフロントフェイス「ユニファイドスピンドル」として表現しました。

- 低い位置に配置されるラジエーターまでスピンドル形状を上下に圧縮しながら、フードとバンパー間のスリットが左右ヘッドランプに繋がり、レゾリュートルックを構成。フロント機能全体を包括的に捉えた「ユニファイドスピンドル」として、フロントデザインを刷新しました。
- 「ユニファイドスピンドル」によるアイコン的な表情に加え、低く構えたフード造形と、ボディとグリルの境界を融合させたシームレスなグリルにより、低重心で見ごたえある存在感を表現するとともに風流れの剥離や変動を抑制し、操作に対するレスポンスの良さや、乗り心地の良さなど、空力や操安性能にも貢献しています。さらに大径タイヤを強調する張り出したフロントフェンダー造形によりダイナミックでスタンスの良い構えを強調しました。

○フードとバンパーの間のスリットからつながるシグネチャーランプは、ターンシグナルとDRL(Daytime Running Light)のバイファンクション化^{*2}に伴い、安全面に考慮した外向きのL字シグネチャーに進化し、レゾリュートルックを強調します。



ユニファイドスピンドル



ヘッドランプ

*1.LEXUSのフロントアイデンティティ「毅然とした表情」を表す

*2.1つのLEDでハイビームとロービームを切り替えるシステム

<クラスを超えた存在感のエクステリア>

ヒエラルキーを超えた存在感を実現するため、18インチの大径タイヤを採用。ショートオーバーハングでトレッドアウトしたワイドなスタンスのボディと、フロントピラー付け根を後方に引いたコンパクトなキャビンの組み合わせにより、低重心で安定感がありながら、ボディサイズにとらわれない存在感を感じさせるプロポーションを実現。

○サイドは、意のままに操れるコンパクトさと安定感ある佇まいを目指し、水平基調のトルソーにキャビンが乗る明快な立体構成で安定感を表現しました。また、大径タイヤを強調する大胆に張り出すフェンダー造形で走りを予感させるダイナミックさを実現しました。



サイドビュー

○リヤはアンダーボディにコンパクトなキャビンに乗せた構成により、低重心でスタンスの良い構えを実現。また、ライセンスプレートバンパーに配置し、すっきりとしたバックドアに LEXUS ロゴを配置することで、低重心でシンプルな塊感を強調しました。LEXUS シグネチャーの強化と進化の表現として、ブランドのコンシスタンシーである「L シェイプー文字シグネチャー」ランプを踏襲。バックドア造形に呼応するように配された一文字グラフィックで独自性を表現しました。また、ターンシグナルランプやバックアップランプの存在感を抑えることで、赤色レンズ部の一文字を強調しました。



LEXUS LBX リヤデザイン

＜クラスのヒエラルキーを超えた上質で存在感のあるデザインを引き立てるエクステリアカラー＞

○ LEXUS ならではの陰影感を追求した「ソニッククロム」や「ソニックカッパー」等、プレミアムな質感と、鮮やかな有彩色でカジュアルさを併せ持つ、全9色のカラーラインアップを設定しました。さらにバイトーンカラーの設定もご用意し、ブラックキャビンとのコントラストでアンダーの塊感を際立たせ、モダンさとスポーティさを表現しました。



LEXUS LBX ソニックカッパー



LEXUS LBX ソニックカッパー & ブラック

▽インテリアの主な特徴

<ドライバーが操作しやすいコンパクトで上質な内装>

インテリアでは、「Tazuna Concept」を採用しながら、プレミアムに相応しいしつらえに徹底的にこだわり、気負うことなくリラックスしてクルマとの一体感を楽しめる室内空間を目指しました。

○水平基調でシンプルなインストルメントパネル造形により、開けた視界を確保。運転に集中できる空間とし、ドライバーが素に戻るコックピットを目指しました。また、メーターフードからドアトリムまでつながる造形テーマにより、空間の広がりコンパクトな手の内感を両立。レジスターを造形に取り込み、機能部品としての主張を抑えることで、乗員を包み込むテーマを強調しました。

○センターディスプレイからコンソールにかけては、高さを抑え傾斜させることにより室内と一体感を増したディスプレイと、扱いやすく配置した操作系により、気負いなく運転できる造形を目指しました。運転時に体を支えるニーサポートは表皮巻きとし、プレミアムに相応しいしつらえとしました。



インテリア



センターコンソール

<走りの楽しさを最大化させるコックピット>

LEXUSの「人間中心」という考え方をさらに進化させた、コックピットデザインの考え方「Tazuna Concept」に基づきデザインしました。人が馬を操る際に使う「手綱」に着想を得て、ステアリングスイッチとヘッドアップディスプレイを連携させ、大きな視線移動をすることなく、運転に集中しながらナビゲーションやオーディオなど、各種機能の操作が容易に可能な空間を実現しています。センターディスプレイはタッチディスプレイ（9.8インチ）を採用し、多くの機能をディスプレイ内のソフトスイッチに集約。スイッチのサイズや形、レイアウト、表示情報など細部までこだわり、各機能の使用頻度も考慮しながら直感的に操作できる最適な配置と形状を追求しています。



コックピット



センターディスプレイ

○メーターには 12.3 インチの大型フル液晶を採用しました。メーターパネルの視認性を良くすることで、ドライバーがより運転に集中できる空間を追求。運転支援情報などを分かりやすく表示しました。



12.3 インチ TFT 液晶式メーター



12.3 インチ TFT 液晶式メーター

<居心地の良い室内を彩るアンビエントイルミネーション>

○室内の造形や素材の美しさを際立たせる 64 色の室内イルミネーションを採用。美しい自然現象を見た際の感情や、気持ちの変化を表現した 14 色を推奨カラーとしてプリセットしました。他の色を自由に選びたい場合は、センターディスプレイのカラーパレットで、その他 50 色の中から選択でき、その時々のお客様の気持ちに寄り添った雰囲気を提供します。



アンビエントイルミネーション

多様なライフスタイルに寄り添った世界観のご提案とオーダーメイドシステム “Bespoke Build”

新型 LBX は、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り沿ったクルマを提供したいという想いをもとに、新しいグレード体系を設定しました。これまでお気に入りのコーディネートがあっても、自分の選びたいグレードによって好みの仕様を選択できなかったお客様の声を踏まえ、多様なライフスタイルや好みにマッチするようなグレード体系としました。

さらに、お客様ご自身でカスタマイズを楽しんでいただけるオーダーメイドシステム“Bespoke Build”をご用意しました。専用アイテムを含む豊富なバリエーションの中からお選びいただくことで、お一人おひとりの感性に寄り添った唯一無二の1台をお届けします。

<お客様の感性に寄り添った世界観>

・LBX “Cool”

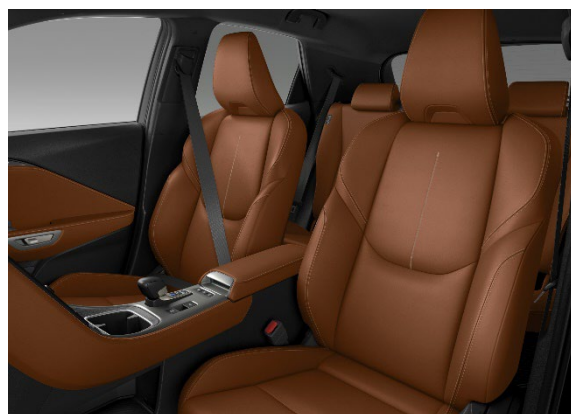
コンセプト「Premium Casual」を最も象徴する世界。セミアニリン本革とウルトラスエード® *1のコントラストと、遊び心あるステッチ&シート・トリム刺繍で、シンプルで洗練されたモダンな空間を表現します。



LBX “Cool”世界観イメージ

・LBX “Relax”

落ち着きと華やかさを両立する HIGH-LUXURY な世界。セミアニリン本革による上質な質感に、サドルタンカラーと手の込んだ刺繍をあしらい、車格を超えたプレミアムな空間を演出します。

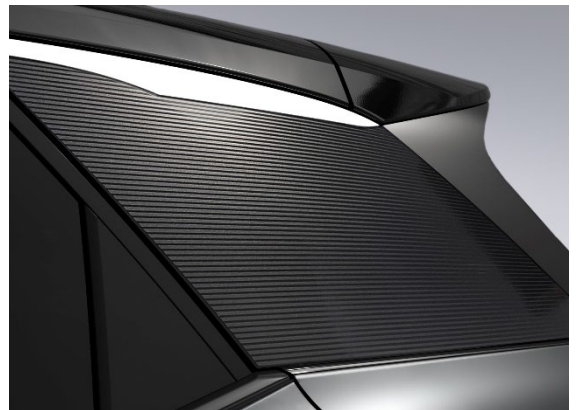


LBX “Relax”世界観イメージ

オーダーメイドシステム<Bespoke Build>

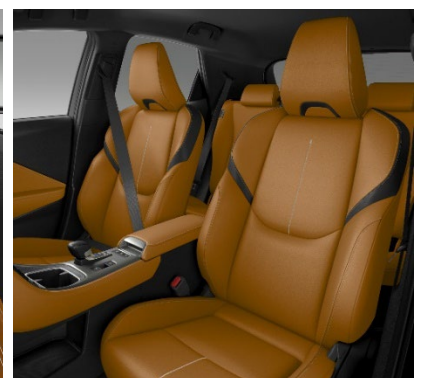
オーダーメイドシステム“Bespoke Build”ではお客様ご自身で 1 からカスタマイズを楽しんでいただき、お一人おひとりの感性に寄り添った唯一無二の 1 台をお届けします。表皮色、シートベルト、ステッチ系の色替え、配色構成のバリエーション拡大、トリム部の加飾追加等、“Bespoke Build”専用アイテムとお好きな外板色と掛け合わせ、豊富なバリエーションの中から、お客様独自のオリジナル・コーディネートをお楽しみ頂けます。

★フロントとリヤバンパーロアにロッカー部分と呼応するフィン形状のエアロパーツをオプション設定。センターピースにはシルバー塗装の差し色を施し、落ち着いた高級感を演出しています。さらにリヤピラーには、黒基調に艶の有無で精緻なライン柄を表現したフィルム加飾もオプション設定。遠目には車両造形と馴染み、車両に近づくと質感のある模様が浮かび上がることで大人の遊び心を表現します。



○LBX “Bespoke Build”コーディネートの一例です。

L-ANILINE 本革では、サイズのヒエラルキーを超えた最高級のおもてなしを表現するとともに、専用内装色*2「オーカー」で、華やかでプレミアムな世界観を表現します。



LBX“Bespoke Build”：L-ANILINE 本革（インテリアカラー：オーカー）

*1. Ultrasuede およびウルトラスエードは東レ株式会社の登録商標です

*2. Bespoke Build 専用内装色は「オーカー」「ダークローズ」「ソリスホワイト」

<先進の予防安全技術 Lexus Safety System+>

LEXUS はモビリティ社会の究極の願い「交通事故死傷者ゼロ」を掲げ、安全技術開発を進めています。世界トップレベルの先進安全技術をより早く開発し、より多くのクルマに普及させていくことが重要という考えのもと、今回の LBX では最新の Lexus Safety System+を採用。運転状況に応じて、適切な操作サポートを行うプロアクティブドライビングアシストや、ドライバーモニターとの連携によるドライバーの運転状況に応じた最適制御など、お客様の安心安全なドライブにより一層貢献します。

▽最新の Lexus Safety System+主な性能・機能

- プロアクティブドライビングアシスト[PDA^{*1}]：「歩行者の横断」「飛び出してくるかもしれない」など、運転の状況に応じたリスクの先読みを行い、歩行者や自転車、駐車車両に近づきすぎないようにステアリング・ブレーキ操作をサポート。先行車との車間距離が近いときや、前方カーブに対して自車の速度が速い状況では、緩やかに減速支援します。さらに、信号交差点への接近を検出した時には、ウインカー操作に応じてあらかじめ減速を支援し、右左折時の操作余裕確保に貢献。車線内を走行時には常時ステアリングをアシスト。幅広い運転状況に応じた適切な操作サポートを通じて、お客様の安全・安心な運転を支援します。
- オプション選択によって装着可能なドライバーモニターと連動した以下の機能が、お客様の運転をサポートします。
- プリクラッシュセーフティ[PCS^{*2}]：ドライバーの脇見運転等をシステムが検知した場合、早いタイミングでドライバーへ警告。ドライバーの反応時間を確保し、衝突回避や被害軽減をサポートします。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）：ドライバーモニターの注意喚起機能が有効にされている時、ドライバーに注意喚起を行うとともに、通常運行時における安全マージンを確保する支援制御を行い、ドライバーが正常状態に復帰したときに、安心して運転を再開できるようにします。
- レーンディパーチャーアラート[LDA^{*3}]：ドライバーの脇見運転等をシステムが検知した場合、通常より早いタイミングで警報や車線逸脱抑制を作動。
- ドライバー異常時対応システム：レーントレーシングアシスト [LTA^{*4}] 制御中に、ドライバーの運転姿勢が大きく崩れた場合等に、システムはドライバーの運転継続が困難と判断し、ハザードランプの点滅など周囲に警告を行いながら緩やかに減速。車線内に停車します。また、停車後にドア解錠やヘルプネット^{*5} 自動接続による救命要請も行い、早期のドライバー救命・救護に寄与します。

<運転支援の拡充>

- ドライバーがリラックスして気負いなく運転できるよう、取り回しや視界の良さにこだわり、ウェットアームワイパーを採用しました。走行時、ウォッシュャー液による視界の阻害を低減させます。



ウェットアームワイパー

- 12.3インチ大型フル液晶メーターを採用しました。ドライバーが運転に集中できるよう、運転支援情報をわかりやすく表示可能。大型液晶を活かした表示グラフィックも選択可能となりました。



12.3インチフル液晶メーター

<先進技術による新たな体験価値>

- OTA⁶ アップデートにより、常に最新のソフトウェアに更新可能。購入後もクルマに新たな機能が追加されるとともに性能が向上することで、最新の運転支援技術を備えたより安全・安心なクルマへ進化していきます。
- ドアのアンラッチ機構をスイッチによる電気制御「e-ラッチシステム」に置き換えることで、無駄な動きのないスムーズなドア操作と滑らかな操作フィーリングを実現しています。
- 専用のスマートフォンアプリをインストールすることで、この機能を有する車両に対してスマートフォンをデジタルキーとして使用可能となります。スマートフォンを携帯していれば画面操作なしでドアのロック、アンロック、エンジンスターターができ、所有するデジタルキーに対応した車が複数ある場合でも1台のスマートフォンだけで操作できます。スマートフォン間でデジタルキーの受け渡しが可能のため、家族や友人間で離れた場所での車両の貸し借りも容易に行えます。

*1. Proactive Driving Assist

*2. Pre-Collision System

*3. Lane Departure Alert

*4. Lane Tracing Assist

*5. 「ヘルプネット」は日本緊急通報サービスの商標です

*6. Over The Air

<先進性と利便性を高めたマルチメディアシステム>

人間中心の考え方に基づき、NXから採用している利便性を向上させる機能を新型LBXにも採用。9.8インチタッチディスプレイに直感的な使いやすさを追求した最新のマルチメディアシステムを採用しました。また、G-Link¹機能により、お客様の日常使いに即したサービスを提供。

また OTA ソフトウェアアップデートを行うことで、予防安全装備や先進技術の性能を向上し、お客様のライフスタイルに寄り添っていきます。

★クラウド上の地図情報を活用し、交通情報や駐車場の空き情報をリアルタイムで取得するコネクティッドナビを採用。G-Linkご契約中は常に最新の地図データをご利用いただけます²。

★最新の音声認識機能は、ステアリングのトークスイッチ操作による起動に加え、ディスプレイのマイクアイコン操作や音声による起動を可能としました。あらかじめ設定された起動ワード（例：Hey Lexus!など）を発話することで、スイッチ操作や再生中の音楽停止をすることなく、音声認識機能の起動が可能です。さらにクルマと会話するような自然な発話での操作にも対応しています。

★iPhone³や Android⁴デバイスの専用機能を車載機ディスプレイにて使用する、Apple CarPlay³、Android Auto⁴を設定しました。Apple CarPlayは、従来のUSB接続に加え、Wi-Fiによる無線接続に対応しています。

★9.8インチナビでは、DCMを活用したインターネット接続により、Webサイト（ニュースやブログ、ストーリーミング音楽、YouTube⁴動画など）を閲覧することができるWebブラウザ機能⁵を設定しました。

★個人設定を車両に登録することができる「マイセッティング機能」では、従来の車両設定（ドライビングポジション、イルミネーションなど）に加え、ナビやオーディオなどのマルチメディアの設定にも対応しました。スマートキーだけでなく、デジタルキーやBluetooth機器（スマートフォンなど）でもドライバーの特定が可能になります。また、G-Linkご契約中は、マルチメディア設定はデータセンターに格納され、別の車両でも利用することができます。

<安心と快適さを追求したG-Link>

★「My LEXUS」により、スマートフォンでクルマの燃料残量や走行距離の確認が可能。さらに乗車前にエアコンを作動させておけるリモートエアコン、充電・給電状況の確認ができる充電管理などのサービスをご利用いただけます。

★「マイカー始動ロック」では、「My LEXUS」からの操作により任意の期間において車のエンジンを始動できなくすることが可能です。夜間や長期の旅行・出張等の際にご利用いただくことで、車を使わない時間のセキュリティを高めることができます。

*1. 「G-Link」は東京ガス株式会社の商標です。使用許諾を受けて使用しています

*2. G-Linkを継続ご契約されないお客様は、3年経過後、G-Link契約をご継続されないお客様においては、地図データを全地図更新で更新する必要があります

*3. Apple、Apple CarPlay、iPhoneはApple Inc.の商標です

iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています

*4. Android™、Android Auto™、YouTubeは、Google LLCの商標です

*5. 「車内Wi-Fi」のお申し込みが必要です

【LBX メーカー希望小売価格】

モデル		エンジン	トランスミッション	駆動	価格* (10%消費税込)
LBX	"Cool"	M15A-FXE 直列3気筒	電気式無段変速機	2WD (FF)	4,600,000
				AWD (E-Four)	4,860,000
	"Relax"			2WD (FF)	4,600,000
				AWD (E-Four)	4,860,000
	"Bespoke Build"			2WD (FF)	5,500,000
				AWD (E-Four)	5,760,000

* 北海道地区のみ価格が異なります。リサイクル料金は含まれません

【KINTO】

新型LBXは、サブスクリプションサービス「KINTO」（個人・法人）でも取り扱っています。

KINTOでは、車両の月額利用料に、自動車保険（任意保険）や自動車税、メンテナンスなど、諸費用を含めてご提供しており、販売店に加えて、オンラインでお見積りからご契約までの一連の手続きが可能です。

ご契約期間中には、中途解約にフレキシブルに対応し、期間を満了した際にKINTOへの車両のご返却のみで済む¹手軽さも特徴です。

詳細はこちら：https://kinto-jp.com/kinto_one/lineup/lexus/lbx/

*1. ご返却の際の車両の状態によっては原状回復費用のお支払いが必要になる場合があります